

2009年 学長年頭挨拶

新年おめでとうございます。良い年を迎えられたことと存じます。年の初めにあたりましてご挨拶をさせていただきます。

昨年は各学部を訪問し、いろいろお話しさせていただき、ご意見を伺いました。さらに各学部の学科長の先生方とも個別に協議する機会を設けさせていただき、貴重なお話をお聞かせいただきました。各学部、部局から将来計画のもとに次期中期目標・計画をご提出いただき、大城副学長を中心にとりまとめ、琉球大学としての次期中期目標・計画を作成しているところであります。学部から output されたものが私共に input され、さらに私共から output されたものが学部に input され、この cycle がしっかりと廻りませんと琉球大学として将来を見据えた発展につながらないと考えています。なお、学内での教職員や学生の皆さんとの情報の伝わり方に不均衡が見られ、もう少し工夫が必要だと考えています。

私共の方からは基礎研究を重視することや、レベルの良い研究をしっかりと行わなくては学生が満足する優れた教育が行われなideいでしょうということなどをお話しいたしています。さらに若手や女性の支援を充分に行うことや大学の中期計画達成経費として組んでいる予算は学部の中期計画の達成のために使うことなどもお話ししています。学部で将来計画として出されていることは経済的な裏付けがないと出来ませんので、中期計画達成経費をこれにあてる必要があります。

昨年は島嶼防災研究センターの設置、国際沖縄研究所の設置準備等が行われています。エコアクション21の認証はほぼ全学で済み、今年は残っている医学部附属病院等の認証を受けるだけになっています。さらに琉球大学の海外への支援としまして県民の皆様のご寄付により、ラオス国のラオス国立大学に附属小学校を寄贈し、ほぼ完成しています。教育学部並びに附属小・中学校との交流が今後期待されます。ラオスでの口唇口蓋裂の手術などの医療支援も行われています。

次に各部局についてお話ししますと、教育学部におかれましては学部の改組や教員免許更新事業の取り組みが行われました。新しく教育 GP も獲得され、発展が期待されます。教員免許の更新につきましては多大の時間と労力が必要でございまして大きな負担となっていますが、沖縄県の困難な教育事情もあり、大学としましてやらなくてはいけない事業でございます。よろしく願いいたします。附属小・中学校では先生方が大学院で学び、レベルアップを目指すことも計画されています。沖縄県の教育レベルの向上に大学としても出来ることをしていきたいと考えています。

法文学部では昨年に引き続き多額の経費を概算要求で獲得され、東南アジア、太平洋域の諸国、中国そして日本を結ぶ人や文化の交流の中心としての沖縄の学を大きく発展させておられます。それらをまとめた書物の発行や国際的に査読者をそろえたレベルの高い Journal の発刊が検討されています。年末には国際シンポジウムも開催されました。先に述べました国際沖縄研究所はその中心的役割を担うことと思います。さらに昨年はハワイ大学にも沖縄研究センターが出来ましたので、連携をとり活動できることと存じます。グローバリゼーションや新自由主義のもとでの経済状況や格差の広がりなど社会的にも困難な事柄が多くなっています。それらに対し、南からの思想の重要性など私共の主張を行い、琉球大学の活躍が期待されます。

観光産業科学部は学部の認可、さらに大学院修士課程の設置が決まり、大変喜ばしいこととございます。新しい学問として観光学をどのように構築していくか夢が膨らみます。

法科大学院につきましては、全国的に見直しが図られていますが、特色を出し、しっかりした対応を行っていくように計画されています。

次に理学部では、現在の COE が終わりますので、次の COE の獲得に向けいろいろと努力されています。テニユア・トラック事業が採択され、ますます活気が出ることと思います。テニユア・トラックには 10 名の募集人員に対し 200 名以上の海外も含めた応募者があり、レベルの高い若手の皆さんが集まっています。さらに熱帯生物圏研究センターと分子生命科学センターの合併で大きな規模の全国共同利用施設が出来ることが計画されています。

工学部では昨年引き続き JABEE による教育、さらに防災研究を理学部や農学部とともに進められ、沖縄県は本土から遠く離れていますので台風、地滑り、地震、津波などに関する地域に役立つ研究が独自に行われています。IT 関連の人材の育成や学際的な研究も多くなっています。外国人特別枠での理工学大学院もレベルの高い研究成果が出ています。

農学部では学部の改組や JABEE の認定などに取り組み、さらに地滑りなどの防災研究、亜熱帯の農学などにも取り組まれて、成果を挙げておられます。泡盛などの発酵科学も期待されています。

医学部では臨床研修制度のせいもあり、研究面が少し低調になりましたが、新しく 2 つほど GP を獲得され、さらに沖縄や九州に多い成人 T 細胞白血病の研究や生活習慣病の研究など新学部長のもとにいろいろと発展が期待されています。腫瘍につきましては放射線医学研究所との連携もスタートしています。附属病院では医師不足などありますが、地域の中核病院として他の医療機関では出来ない高度の医療を行っています。厚労省のがん診療連携拠点病院の指定も受けています。

図書館では沖縄関係の貴重書の修復保存や収集など沖縄に関する重要な文献は琉球大学に行けば揃っているというようにする必要があり、努力されています。昨年より始めました「びぶりお文学賞」は大変評判が良く、昨年の大賞の受賞者は九州文学賞でも佳作になっています。

私共の大学はどちらかと言えば、教育を中心に行うといったことが言われていましたが、大学評価・学位授与機構による私共の大学の教育に対する評価はきわめて悪く、今年からいろいろ工夫が必要です。大学にふさわしい教育をしっかりと行うためには、研究の裏付けが無くては出来ません。大学の教育は専門家によって行われるものであります。専門領域の研究を行っている専門家が教育を行い、教養教育にもっと専門教育を入れることや昨年からお願ひしていますようにリベラルアーツ型の教育も行う必要があります。教員は教壇の上から一方的に喋り、学生は居眠りをしているという知識伝授型教育ではなく、学生が自分で問題を見つけ考える教育が大切です。学士力という言葉が最近聞かれます。全国の大学はレベルの高い学力を身につけた学生を世の中に送り出すようにいろいろ努力してまいり、文部科学省や教育審議会では国際標準ということを行っています。私共の大学は、私共のやり方で学生が高いレベルの学問を身につけるように努力を行う必要があります。これは学生の就職や将来にも大きな影響があります。中央の大学と違い私共のような地方の大学は時流に流されず、腰を据えて基礎科学の研究を行いましょ。私共の大学ではそれがやれると思っています。さらに将来を見据えて若手や女性研究者の支援をしっかりやっていく必要があります。大学としましては、あまり目立たない基

礎研究を重視し、同時にサンゴ礁の生物の研究や沖縄を中心とした人や文化の交流の研究、防災研究、地域特性と疾患の研究など **one and only** となる研究にもしっかり取り組んで行きたいと思えます。現在は地球温暖化や環境破壊の問題、グローバルな経済の問題、人の交流や教育のレベルの問題など世界規模で起こっている問題に大学は知恵を生かし指導的役割を果たす必要があります。学生支援等では、大学院生のための授業料減免もわずかではありますが特別に行うことにしました。学生募集も様々な工夫を行いつつあります。大学の機能別分類ということが言われていますが、これは、研究重視型大学とか教育重視型大学というような区分ではなく、大学がそれぞれの得意分野を生かして特徴を出し、博士課程まである大学、修士までの大学、コミュニティカレッジのような大学など地域全体としてコンソーシアムを作るという話です。私共の大学は博士課程を有す大学として後継者を育てる役割も担っています。

なお、昨年 **12 月末に概算要求の結果**が出ていますのでお知らせいたしますと運営費交付金は **3 % 減**になるのではということが言われ心配していましたが、例年どおり **1 % 減**です。私共の大学の要求は組織整備はいずれも認められ、さらに継続分はいずれも申請どおりに認められました。新規分としましては教育学部の連携融合事業、分子生命科学センターの研究推進、理学部の結晶構造解析システム、さらに附属病院の 3 件の特別設備が認められました。しかし、残念なことに総合情報処理センターの 2 億以上の要求は文科省は認めてくれましたが、財務省では認められませんでした。事務局長や財務部長をはじめ、事務部の努力でいろいろと獲得できています。継続事業には来年度以降終了するものが多くありますので、次の新しい事業による概算要求の獲得を目指す必要があります。学生部は教育の改革、学術国際部は外国の大学との共同研究やラオスでの小学校の寄贈、施設運営部は中央食堂の改修や環境問題への取り組みなどをやってきました。総務部と財務部も人件費の比率が私共の大学は他の同様な規模の大学より高く、教育や研究経費が少ないといった状況の中で努力しています。企画広報係は那覇空港での大学の紹介など大変活躍しています。さらに活躍を期待します。次に全国の大学を見ますと不正経理なども指摘されているようなところもあり、私共も気持ちを引き締めていく必要があります。大学本来の仕事は、教育・研究であることは論を待ちませんが、それらがしっかり行えるように教員と事務方の協力が今後ますます必要になってきます。

なお、ご存じのように現在の新自由主義の経済のもとで世界的な不況が起こっています。学生の中には経済的理由で就学が困難になる者も出てくるのが予想されますので、授業料の免除など、幅広く行っていきたいと考えます。卒業生の就職にも悪い影響が出ています。就職センターも島袋センター長以下みなさんが頑張っていますが、先生方におかれましても状況の把握や対応をよろしくお願いいたします。

今年が皆様にとりまして、良い年であることを願い、簡単ではございますが新年のご挨拶を述べさせていただきます。

平成 21 年 1 月 5 日
琉球大学長
岩政輝男